

尺骨鉤状突起単独骨折の症例

お 生 ご 越 えい 英 じ 二

キーワード：coronoid process, isolated fracture

要 旨

コンクリートの土間で転倒，比較的稀な尺骨鉤状突起単独骨折の症例を経験した。単純X線では骨折は確認できず，CTで確認された。鉤状突起単独骨折は適切な治療が行われないと変形性肘関節症を生じることになるので注意を要する。

はじめに

尺骨鉤状突起は肘関節の前方安定性に重要な骨性要素であり，また鉤状突起に付着する関節包，上腕筋も重要な軟部組織要素である。また前斜走靭帯帯（anterior oblique ligament；AOL）が付着するため，肘関節の内側安定性に重要な役割を果たす¹⁾。通常鉤状突起単独骨折は比較的稀で鉤状突起骨折はさまざまな損傷パターンで他の骨折や靭帯損傷を伴うことが多いため，肘関節不安定性のred flagと言える。適切な治療が行われないと肘関節外反不安定性が残存し，変形性肘関節症が生じることになる。今回鉤状突起単独骨折の症例を経験したので若干の文献的考察を加え報告する。

症 例

症 例：81才男性
 主 訴：右肘関節痛
 既往歴：右変形性肘関節症。学生時代はバレーボールのアタッカーで右肘を痛め，そのころから右肘の屈伸が悪くなってきた。
 現病歴：コンクリートの土間で転倒，翌日当院受診。
 初診時所見：右肘関節周囲の腫脹を認める。力を入れると右肘が痛く箸が持てない。
 関節可動域は伸展40°屈曲90°で運動時痛あり。
 握力右 0 kg左22.9kgでした。
 画像所見：単純X線側面像では骨折は確認できず，(図1)受傷12日後CTで鉤状突起単独骨折が確認された。他の骨折はなかった。(図2)
 経 過：右肘関節内骨折の疑いで右肘関節90°で上腕～前腕までのギブスシーネ固定を行った。受傷68日後のCT(図3)にて仮骨形成はありそうですが骨癒合は認めず，骨片はわずかに転位が大

Eiji OGOSHI

医療法人慶生会 生越整形外科クリニック
 連絡先：〒694-00641 島根県大田市大田町大田イ263-8
 医療法人慶生会 生越整形外科クリニック



図1 初診時単純X線側面像



図2 受傷12日後CT

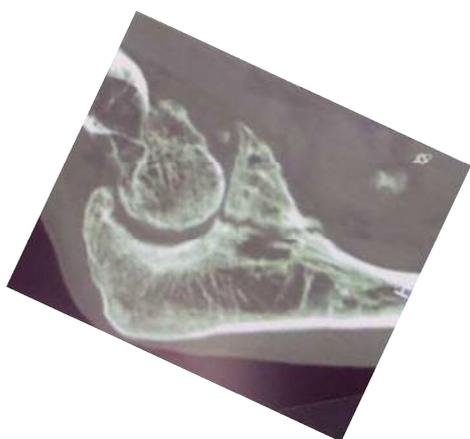


図3 受傷68日後CT



図4 受傷123日後CT

きくなった印象で右肘装具装着とする。受傷123日後のCT（図4）にて骨癒合は良好で右肘関節痛は消失，関節可動域は伸展40°屈曲110°，握力右21.0kg左23.2kgで肘関節不安定性はなく，ADLに支障はない。

考 察

尺骨鉤状突起骨折の分類法としてはこれまで単純X線側面像を用いた Regan²⁾ 分類が主に用いられてきた。

この分類が長く用いられてきた理由は単純X線側面像のみで評価できる簡便さでした。しかしその問題点として橈骨頭部との重なりが生じること，骨片が回旋した場合など大きさの判定自体に再現

性が乏しいことなどが挙げられる。本骨折が冠状面で単純な横骨折であることは稀であり，本骨折を単純X線側面像のみで評価することには限界があると考えられた³⁾。

2003年 O'Driscoll⁴⁾ は3D-CTを用いた，より詳細な3次元的分類法を報告した。骨片の位置，大きさなどを詳細に評価でき，単純な鉤状突起骨折の評価はもとより，複合性肘不安定症（complex elbow instability）などの複雑な病態の把握，アプローチ法の決定，内固定方法の選択などに有用な分類法といえる。

O'Driscoll 分類は鉤状突起骨片が小さい Tip 骨折 subtype 1（骨片高が2 mm 以下），subtype 2（骨片高が2 mm を超える）と，②骨片に AOL

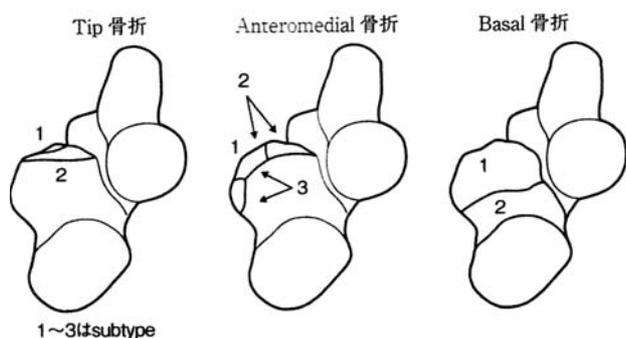


図5 O'Driscoll分類

が付着する Anteromedial (AM) 骨折 subtype 1 (前内側骨片), subtype 2 (subtype 1+前方骨片), subtype 3 (subtype 1+ 内側骨片) と, ③ 鉤状突起基部骨折の Basal 骨折 subtype 1, 肘頭骨折合併例の subtype 2 とに分類されている。

文 献

- 1) 二村昭元ほか: Complex elbow instability の診断・治療に必要な機能解剖 (外側) 整・災外60: 1061-1065, 2017
- 2) Regan W et al: Fractures of the coronoid process Of the ulna. J Bone Joint Surg 71-A: 1348-1354, 1989
- 3) 今谷潤也ほか: 尺骨鉤状突起骨折の画像診断. 日肘会

(図5)

本症例は O'Driscoll 分類の Tip 骨折, sub type 2であった。稲垣ら⁵⁾は肘と骨折の安定化を初期より図るという意味で腕尺関節脱臼を伴わなければ33%以上の尺骨鉤状突起骨折を手術適応とし、一方、腕尺関節脱臼を伴えば25%でも手術適応とし、良好な結果が得られたと報告している。本症例は手術を希望されませんでしたので保存的治療を行いました。

ま と め

今回比較的稀な尺骨鉤状突起単独骨折を経験し、保存的治療で良好な結果を得た。

- 誌 20: 68-70, 2013
- 4) O'Driscoll SW et al: Difficult elbow fractures; pearls And pitfalls. AAOS instr Course Lect 52:113-134, 2003
- 5) 稲垣克記ほか: Complex elbow instability の概念. 整・災外60: 1055-1059, 2017